

2022 年度 I 期 個人企画

番号	氏名	渡航先	国・地域	渡航先での受入期間
1	T・T	スタンフォード大学 医学部	アメリカ	2022/8/12-8/21

## 令和4年度岸本国際交流奨学金による海外活動実施報告書

医学部医学科	5	年	学籍番号：*****	氏名：T・T
--------	---	---	------------	--------

渡航先国：アメリカ合衆国
--------------

受入機関名：スタンフォード大学

渡航先機関での受入期間：令和4年8月 12日 ～ 令和4年8月21日（10日間）

### <目的>

- 海外における臨床現場と日本の臨床現場の違いを、人的目線、金銭的目線、構造上の目線でそれぞれ正しく理解すること
- 海外における最先端の医療機器が生まれてくる環境やその現場を理解して、日本に応用できる余地がないかを模索していくこと

### <内容>

8/11 入国日

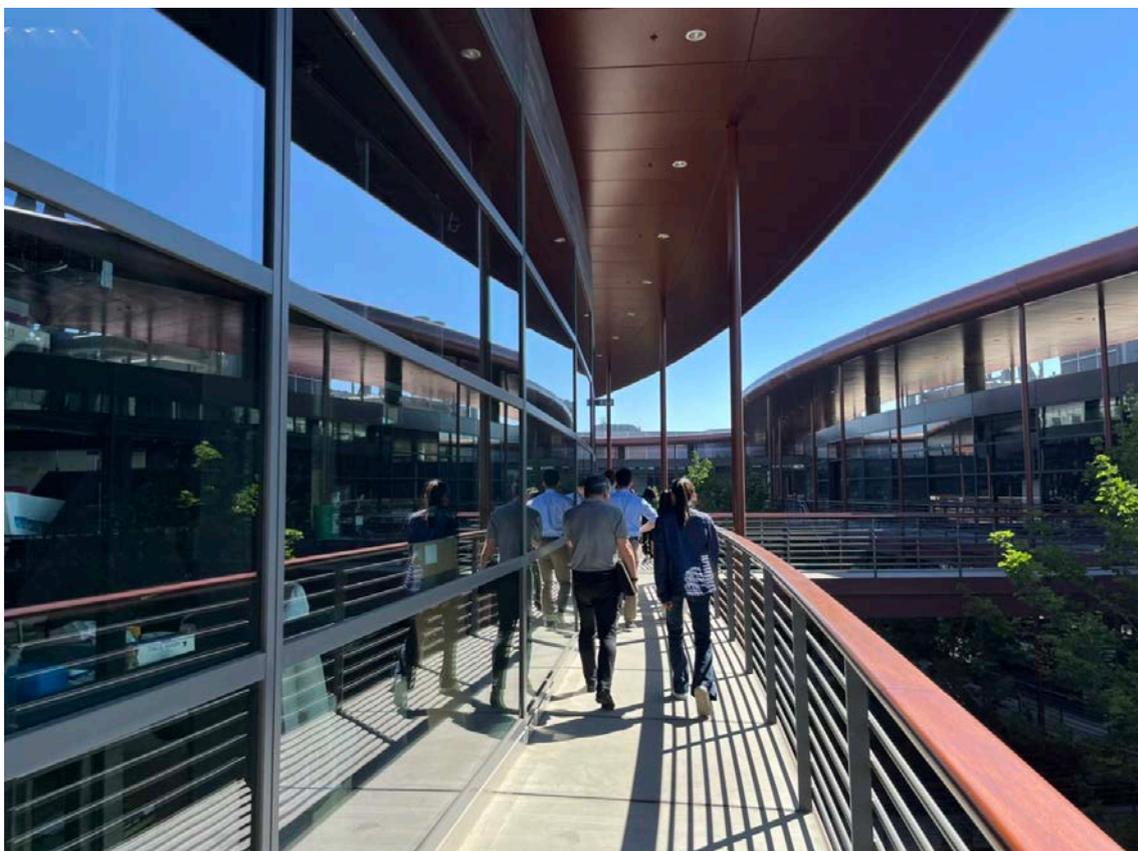
8/12 スタンフォード大学実習0日目/到着

- 病院に入るIDの発行
- 病院施設、院内の見学



#### 8/15 スタンフォード大学実習 1 日目

- ICU や CCU の病棟見学を中心に行った
- 夏休みの実習できていた実習生のテキサス大学の医学生とランチを食べ、午後是一緒に実習を回った。



#### 8/16 スタンフォード大学実習 2 日目

- 心臓移植が行われるということで、朝から夕方まで心臓移植の見学を行った。
- ここで見た心臓移植はスタンフォード大学でも三例目の移植手術であり、一度停止した心臓を人工的にポンピングさせ、その心臓を移植した症例であった。

#### 8/17 スタンフォード大学実習 3 日目

- スタンフォード大学心臓血管外科教授の Woo 先生による僧帽弁形成術の手術を見学することができた。



#### 8/18 スタンフォード大学実習 4 日目

- スタンフォード大学心臓血管外科教授の Woo 先生と、短い期間であったが面談の機会をいただくことができた。
- スタンフォード心臓血管外科のラボにてラボ実験の見学初め、多くの PI や研究生と話をすることができた。

#### 8/19 スタンフォード大学実習 5 日目

- スタンフォード大学医学部に併設されているバイオデザイン講座にて施設の見学とミニ WS を受講してきた。バイオデザインとは、スタンフォード大学に特設された医療機器開発を行うための特別なラボのことである。

#### 8/21 帰国日

### <成果/考察>

様々な体験の中で得た学びとして、①革新的な医療機器が次々と開発使用され、それにより今まで救えなかった患者さんがどんどん救われているということ、②心臓外科医としてのスタンスが日本とは異なることの2つがありました。

#### ①について

もともとアメリカで循環器系の医療機器開発が盛んであることは知っておりましたが、実際に現場に行ってみると本当にそのような現場がありました。今回僕はたまたま心臓移植の現場を見ることができたのですが、その心臓移植が今まで見たことがあるものとは異なっておりました。一度停止したドナーからの心臓をペースング機器で人工的に拍動させて、その心臓をレシピエントに移植しておりました。このようなデバイスのコンセプトは想像したことがなく非常に画期的であるなと思いました。そのあと首藤先生やテキサス大の医学生と議論をして課題もたくさんあるのは分かりましたが、日本ではできないような手術、特に新しいデバイスを用いた手術がアメリカではできるということに非常に感動しました。

#### ②について

心臓外科医としてのスタンスが全く異なることも驚きでした。日本では心臓血管外科の先生は「とにかく患者さんのために、献身的に働く」というイメージがやはり強く感じていたのですが、アメリカの vascular surgent は手術、病棟管理、研究、とかなりしっかりとした分業体制が整っており、それぞれがそれぞれの分野でアウトプットを出していくことを徹底されていることがかなり明確に感じました。手術一つとっても PA という方がいて、医師免許を持っていなくても医師の手術を手伝うことができることに驚愕いたしました。その分外科医は症例数も多く、レジデントでも執刀医の隣でオペをしていることは非常に驚愕でした。

### <今後の抱負>

私は初心の通り、医療機器開発を行うことができる外科医を目指していきたくて今回の渡米を通して改めて思った。その現場として、アメリカの地で機器開発ができるようにこれからも訓練に励んでいきたいと思っています。

### <謝辞>

最後になりましたが、ご指導いただきました宮川教授、島津教授をそして岸本国際交流奨学基金の岸本忠三先生にこの場を借りて厚く御礼申し上げます。